

Intraoperative diagnosis of lymph node metastasis by transcription-reverse transcription concerted reaction assay in gastric cancer

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2013-11-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 平山, 亮一 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/30284

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 2791 号	氏 名	平山 亮一
審 査 委 員 会	主 査 教 授	亀岡 信悟	
論文審査の要旨 (400 字以内)			
<p>論文のタイトルは「intraoperative diagnosis of lymph node metastasis by transcription-reverse transcription concerted reaction assay in gastric cancer (TRC 法による胃癌リンパ節の術中転移診断)」である。</p> <p>【目的】胃癌の外科治療において、正確な術中診断が可能となれば過不足のないリンパ節郭清ができ、腫瘍学的にも十分でかつ安全な低侵襲手術ができる。著者らは従来の TRC 法ではサンプルとして 1/2 のリンパ節をホモジナイズして用いていたが、新たにリンパ節切片の洗浄液を用いた TRC 法で CEAmRNA を定量的測定し、本法の意義を検証した。【対象と方法】対象は胃癌手術 40 例、郭清リンパ節 110 個である。1/2 のリンパ節切片の洗浄液を用い CEAmRNA を測定、HE 染色とサイトケラチン染色 (CK 染色) と比較した。</p> <p>【結果】HE 染色で転移陽性は 29 個、陰性は 81 個、TRC 法では転移陽性は 38 個、陰性は 72 個であった。CK 染色では転移陽性は 37 個、陰性は 73 個であった。CK 染色陽性で HE 染色陰性は 8 個認められたが、いずれも微小転移であった。CK 染色と比較した HE 染色の感度は 78.4%、特異度は 100%であったのに対し、CK 染色と比較した TRC 法の感度は 91.9%、特異度は 94.5%であった。</p> <p>【考察、結論】CK 染色と TRC 法の比較で得られた感度、特異度は臨床検査としては妥当であり、永久標本の HE 染色より感度としては優れた結果であった。リンパ節切片の洗浄液を用いた TRC 法は迅速性、簡便性を有するすぐれた術中診断法であり、臨床応用可能と考えられた。</p> <p>以上、本論文は基礎的および臨床的に極めて価値ある論文である。</p> <p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]</p>			